

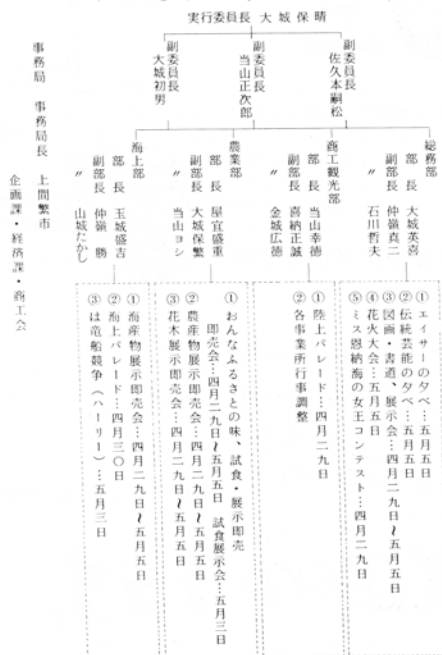


海・ムラの自然・文化伝統芸能で



観光立村のイメージアップを！

おんなまつり実行委員会



▲美人コンテスト審査風景

▲第1回ミス恩納海の女王 S.52.55.



▶エイサー祭り

全村民を挙げての恒例の行事とした、恩納まつりが、四月二十九日（土）と五月五日（金）までの間に行なわれることになりました。村の自然、農産物、水産物等の地場産品及び、文化伝統芸能を広く村内外に宣伝し、観光立村のイメージアップを図り、村内産業の総合的な育成発展と併せて村民の親睦と連帯感を高めることを目的として行なわれるもので、その概要は次のとおり。

一、名 称 第二回おんなまつり

二、主 催 おんまつり実行委員会

三、後 援 恩納村夜場、恩納村議会、恩納村商工会、恩納村農業協同組合、恩納村漁業協同組合、恩納村教育委員会、恩納村区長会、恩納村婦人会、恩納村青年団協議会、恩納村老人クラブ連合会、恩納村生活改善普及連絡協議会

四、協力団体 恩納村生活改善普及連絡協議会、恩納村林水産部、石川警察署

五、協賛団体 沖繩観光振興局、沖繩観光連盟、沖繩農林水産部、石川警察署

各事業所、各放送局、各放送局

第二回 おんなまつり実施要項まとまる

四月二十九日～五月五日まで

りますと、「村の自然、農産物、水産物等の地場産品及び文化、伝統芸能を広く村内外に宣伝し、観光立村のイメージアップを図り、村内産業の総合的な育成発展と併せて村民の親睦と連帯感を高めることを目的におんなまつりを実施した。」とあります。

村内のホテルや観光施設など、各事業所でも様々な催し物が行われました。実施要項によりまずと、陸上パレード、海上パレード、エイサー、伝統芸能、ミス恩納海の女王コンテスト、農産物や海産物、花木の展示即売会などが行われたようです。その後昭和六十三（一九八八）年までは海びらきに合わせた開催でした。

平成元年に開催が夏へ変わりました。この年は夏休み中の八月に実施されました。それ以降、七月、八月の夏に行われるようになり、夏まつりとして定着していききました。

現在では「おんなまつり」の人気をさらに高める「地域振興鍋（恩納ナベ）」の牛汁ですが、この鍋が作られたのは一九九二年でした。地域振興協議会が「同じ鍋の飯を食って連帯を深め、村の活性化につなげよう」との思

いで作ったそうで、大きさは直径三、一メートル、高さ六十五cm、重さ八九〇キロあります。この「恩納ナベ」の牛汁は一九九四年ごろから「おんなまつり」で振る舞われるようになり、今ではこれを楽しみに訪れる方もいるほどの定番となりました。

「おんなまつり」のポスターやキャッチフレーズは村内の小中学生の作品で作成されていますが、これは平成十七（二〇〇五）年から実施されました。子どもたちの作品により、おんなまつりの楽しさ、華やかさが表現されるようになりました。（幸喜）

《参考文献》

「広報おんな」

『設立十周年記念誌 商工会のあゆみ』恩納村商工会 1984

「わしたシマ一番（三四）恩納村」1997.8.24 沖繩タイムズ記事

優秀作品

第22回 うんなまつり

「ポスター」

最優秀作品

「テーマ」

1位

青い海 青い空のナビーの里

ここからはじまる文化の里

喜瀬武原中3年 上原華絵

(二〇〇五年に選ばれた作品)



吉山 美山貴
山田小6年

いので作ったそうで、大きさは直径三、一メートル、高さ六十五cm、重さ八九〇キロあります。この「恩納ナベ」の牛汁は一九九四年ごろから「おんなまつり」で振る舞われるようになり、今ではこれを楽しみに訪れる方もいるほどの定番となりました。